

| 専攻等     |          | カリキュラム・ポリシー  |
|---------|----------|--|
| 工芸科学研究科 |          | <p>大学院工芸科学研究科では、各専門分野の最先端で活躍できる国際的理工系高度専門技術者(TECH LEADER)、研究者等の高度専門職業人の養成を行っています。</p> <p>各専攻等の教育プログラムは、研究科ディプロマ・ポリシーに掲げる「高度な専門的知識・能力」、「実践的外国語運用能力」(以上、博士前期課程)や「創造性豊かな優れた研究・開発能力」、「国際経験」(以上、博士後期課程)等と、各専攻のディプロマ・ポリシーに掲げる各専門分野に応じた能力を身につけることができるよう、より高度な技術と理論を追求できること、人や環境と調和する21世紀型科学技術の探求に繋がること、幅広い視野を身につけた高度専門職業人の育成に寄与することに留意して構築されています。</p> <p>教育プログラムの編成にあたっては、各専攻の特性に応じて、講義、演習、実習、インターンシップ等の授業科目を配置し、高度な専門的知識・能力や国際性の向上に資する機会を提供しています。加えて、「専攻共通科目」により、各専門分野にまたがる分野横断的な授業科目を配置し、幅広い視野を身につけるための機会を提供しています。</p> <p>各授業科目の学習成果は、試験、レポート、発表、授業への参加意欲等により評価します。また、修士論文又は特定の課題についての研究の成果並びに博士論文については、各専攻が定める評価基準に基づいて審査を行います。</p> <p>なお、本学では、TECH LEADERの育成に向けて、「3×3(スリー・バイ・スリー)」と呼ばれる教育プログラム・システムを採用しています。「3×3」は、TECH LEADER育成の基本となる大学院工芸科学研究科博士前期課程までの6年間とその後の博士後期課程の3年を含めた9年間を見据えたシステムです。</p> <p>「3×3」の教育プログラムは、全授業科目にナンバリングを付すことによって科目間の関連や科目内容のレベルを表し、体系的に編成されています。なお、大学院における授業科目では、原則、クォーター制(4学期制)を採用していますが、セメスター制(2学期制)で行っている授業科目もあります。</p> |
|         | 専攻共通科目   | <p>大学院の高等教養教育として開講されている「専攻共通科目」には、学内外の教員によって担当される数理・デジタルイノベーション科目、英語科目、産業・社会・文化科目に加え、特別科目として特別教育プログラム、国際科学技術コース、インターンシップ等に関わる科目が提供されています。</p> <p>このように多様な科目を履修することによって、専門特化する教育・研究を支える基盤を養成することを目指します。</p>   |
|         | 応用生物学域   | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 課程において修得した生体構成分子(タンパク質、核酸、脂質、糖など)の構造と機能、および生命現象(代謝、遺伝、発生、生理、行動)の基礎的知識をもとに各分野における専門的な講義を行い、知識の体系化と高度化をはかるプログラムを提供します。【専門力】</p> <p>B. 少人数クラスの特別演習により、英文の論文講読を実施し、最新の知見を学び、それらを応用できる能力の向上をはかります。また、プレゼンテーションやディスカッション能力の向上をはかり、グローバルな場でもそれが発揮できるプログラムを提供します。【専門力、外国語運用能力、リーダーシップ】</p> <p>C. 生命現象に対して鋭い着眼点を有し、自ら新しい課題を発見でき、柔軟な思考力により課題を解決する能力を身につける実践的な特別実験プログラムを提供します。【専門力、リーダーシップ】</p>  |
| 博士前期課程  | 物質・材料科学域 | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 高分子、セラミックスなどに関連した幅広い知識を持ち、それらを基に新素材・新材料を開発することができる専門的能力を有している。</p> <p>(1)物理化学、高分子材料学、無機化学に関する知識を基に、様々な材料のマイクロ構造を理解した上でその材料の機能発現の仕組みを理解する。【専門力】</p> <p>(2)材料設計学、複合化学を通じて既存材料の創製に至るプロセスを学び、新規材料創製に必要な能力を涵養する。【専門力】</p> <p>B. 理解した機能発現のメカニズムを実用材料の創製へ展開する能力の基礎を身につける。</p> <p>(1)幅広い分野における材料創製に関する知識を得て、それらを組み合わせる新規材料へ展開する能力を身につける。【専門力、リーダーシップ】</p> <p>C. 研究者・技術者としての社会に対する自覚、高い倫理性、人間的に広く深い素養ならびに国際性を有している。</p> <p>(1)国際的な材料開発研究に触れて材料創製に関する幅広い知識を得る。【外国語運用能力】</p> <p>(2)様々な社会問題を材料の観点からアプローチし、解決方法を導くことができる。【リーダーシップ】</p>   |
|         | 材料制御化学専攻 | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 材料物理学、材料物理化学、高分子及び無機物性化学並びに繊維関連科学に関する十分な基礎知識を有する。</p> <p>(1)物理・物理化学、高分子物性科学、無機物性科学、高分子化学等の学部レベル教育の基礎を前提とし、その上に高分子及び無機物質の物性発現の基盤・原理を理解する。〔基礎力、応用・実践力、異分野融合力〕【専門力】</p> <p>B. 有機、無機及びハイブリッド材料の構造・物性の評価及び規格化から理論的モデルの創出にわたる物性制御の革新を実現する応用能力を有する。</p> <p>(1)革新的な材料開発を担う基礎並びに応用能力を修得させる。〔応用・実践力、異分野融合力〕【専門力】</p> <p>(2)研究を遂行する際に求められる、研究計画、実験・計算技術、データ解析・考察などの能力を養う。〔応用・実践力〕【専門力、リーダーシップ、個の確立】</p> <p>C. 材料開発に携わる研究技術者として人間的に広く深い素養と自覚、豊かな国際性を有する。</p> <p>(1)専門分野の研究成果をグローバルな視点で捉え且つ発信する素養を身につけさせる。〔国際化〕【外国語運用能力、リーダーシップ、個の確立】</p>  |

| 専攻等    |            | カリキュラム・ポリシー  |
|--------|------------|--|
| 博士前期課程 | 物質・材料科学域   | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 原子・分子から高度な機能と性能を有する材料創成を目指すボトムアップ法の理念に基づいて、分子レベルからの材料設計と精密合成、さらには、構造変換や分子組織化に関わる高度な専門的能力を身につけている。</p> <p>(1) 有機化学、高分子化学等の学部レベル教育の基礎を前提とし、その上に有機低分子化合物、高分子化合物および各種ハイブリッドの分子設計・材料設計の指針を理解する【専門力】</p> <p>(2) 新物質の創出に展開できる能力を涵養するとともに、それら化合物や材料を効率的に合成する新たな方法を提案できる能力の基礎を身に付ける【専門力】</p> <p>B. 新物質・新材料の開発にあたり、高い倫理性と責任感をもって研究開発を行い、人と自然が共生可能な持続性のある社会の構築に貢献できる能力を身につけている。</p> <p>(1) 研究・演習を通じて、科学的な原理・原則の理解のみならず、実際に各種化合物を合成するための実務的な技術・方法を体得する【リーダーシップ、個の確立】</p> <p>C. 機能物質創成に携わる研究者・技術者として、国際的な広い視野と研究感覚を体得している。</p> <p>(1) 学内・学外での発表機会を多く与えることで、的確な構成力・判断力・プレゼンテーション能力等の向上をはかる【外国語運用能力】</p>   |
|        | 機能物質化学専攻   | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. タンパク質や核酸・多糖・生体活性物質に関連した幅広い知識を持ち、生体関連物質の機能性・作用機序の解析、新物質の創出、計測技術の開発ができる高度な専門的应用能力を有している。</p> <p>(1) 物理・分析化学、有機化学、生体関連化学、高分子化学、分子構造化学、化学工学に関する知識を基に、生体機能物質の複雑な性質や構造を理解する【専門力】</p> <p>(2) 生体関連物質の分子レベルにおける精密な解析ができる能力を涵養する【専門力】</p> <p>B. 人類が対峙する課題解決をめざして、知識と技術を統合し総合的視野から問題を洞察・解決する能力を有している。</p> <p>(1) 研究・演習を通じて技術・方法を体得し、知識と組み合わせる生体関連物質の作用機序解明、高機能性物質の創成、先端計測技術の確立へ展開する能力を身につける【専門力、リーダーシップ】</p> <p>(2) 人類が対峙する問題に対して生体関連物質の観点からアプローチし、解決方法を導く【リーダーシップ】</p> <p>C. 研究者・技術者としての社会に対する自覚、高い倫理性、人間的に広く深い教養ならびに国際性を有している。</p> <p>(1) 機能物質化学に関する国際的な研究に触れて、機能物質化学に関する幅広い知識を得る【外国語運用能力】</p> <p>(2) 留学や国際学会の経験、留学生との交流を通じて、国際性・多様性を醸成しつつ、自分自身の専門性の確立に努める【個の確立】</p> |
|        | 電子システム工学専攻 | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 講義【個の確立、専門力】</p> <p>(1) 材料・プラズマ・デバイス・回路・電磁波・光・信号処理・通信・計測などの広い領域をカバー【専門力】</p> <p>(2) 設計・解析・制御に関する技術を提供【専門力】</p> <p>(3) 知的財産権などの社会的視点を涵養【専門力】</p> <p>(4) コミュニケーション能力を養成【個の確立】</p> <p>(5) インターンシップを推奨【専門力】</p> <p>B. 3×3制度【専門力、リーダーシップ】</p> <p>(1) 学部4年次に大学院博士前期課程の科目の受講可</p> <p>C. 英語能力の養成【外国語運用能力】</p> <p>(1) 英語による論文作成</p> <p>(2) 国際学会での発表</p> <p>(3) 海外研究者との交流</p> <p>(4) 海外留学を推奨</p>  |
|        | 設計工学域      | <p>本専攻では、研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 基礎理論を含め、今後の技術進歩に対応するための基礎固めを行います。【専門力】</p> <p>B. 専門的で、最新、最先端の内容を修得するために所属教員の研究分野の特長を活かした教育を行います。【専門力】</p> <p>C. 講義科目は主に第1、第3クォーターに開講し、第2、第4クォーターは、インターンシップあるいは短期海外留学を利用して、専門知識・技能の深化およびコミュニケーション能力などの研究技術者としての能力を養います。【専門力、リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立】</p> <p>D. 特別研究などで実施される国内外を問わない幅広い研究活動を通じて研究内容および成果に基づくディスカッション・プレゼンテーションを経験することで、研究技術者として要求される能力の向上を行います。【専門力、リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立】</p>  |

| 専攻等    |                  | カリキュラム・ポリシー   |
|--------|------------------|---|
| 設計工学域  | 機械物理学専攻          | <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、以下のカリキュラム・ポリシーに基づいて専門実践修練段階の教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 高度かつ実践的な専門知識の習得<br/>様々な物理現象を解明するための高度な理論的、実験的及び数値的解析手法を理解する能力と、それを実践できる専門的な能力を育成します。【専門力】</p> <p>B. 展開力と創造力の育成<br/>専門基礎形成段階で養った専門知識を応用した実際の工学的問題に対する理論的展開力を養成します。また、機械工学の様々な産業分野に現れるクリティカルな物理現象を、力学的・物理学的観点から深く探求することで問題の本質を理解できる能力を養成するとともに、旧来の限界を突破することのできる新たな価値を創造する力を育成します。【専門力、リーダーシップ】</p> <p>C. 国際性と倫理観の養成<br/>国際的に活躍できる自己発信能力を涵養し、技術者・研究者に必要な倫理観を養成する教育を行います。【外国語運用能力、個の確立】</p>  |
|        | 機械設計学専攻          | <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、以下のカリキュラム・ポリシーに基づいて専門実践修練段階の教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 先端的かつ幅広い専門性の育成<br/>本専攻では機械工学を始めとして様々な分野の先端的テクノロジーを理解できる能力を養成することで、人間社会が抱える様々な課題や要請の本質を的確に理解する力を涵養します。【専門力】</p> <p>B. 応用力と創造力の育成<br/>高度な工学的知識を横断的に駆使することにより、実際の工学的問題に応用する能力を養成することで、革新的かつ実践的な新しい価値をデザインする「実践的価値創造力」を養成する教育を行なっています。【専門力、リーダーシップ】</p> <p>C. 国際性と倫理観の養成<br/>国際的に活躍できる自己発信能力を涵養し、技術者・研究者に必要な倫理観を養成する教育を行います。【外国語運用能力、個の確立】</p>   |
| 博士前期課程 | デザイン学専攻          | <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. デザインにおける専門知識、方法の繰り返し実践を通じた修得<br/>(1) 産学連携課題を活かしたPBL (Project Based Learning) 教育【実践力】<br/>(2) 授業および研究室における徹底的な議論【専門力】</p> <p>B. 異分野協働(インターディシプナリー)体験による共創姿勢の修得<br/>(1) 多様な異分野混合チームワークの段階的体験【専門・文化を超えたコミュニケーション力】<br/>(2) デザインを共通言語としたチーム運営【専門力、リーダーシップ】</p> <p>C. 実践的キュレーション演習<br/>(1) ゼミにおける研究発表とディスカッション【専門力】【コミュニケーション力】<br/>(2) キュレーション関連演習を通じた基礎力と学芸員としての実践力の修得【実践力】</p>   |
|        | デザイン科学域<br>建築学専攻 | <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定め、これに基づき、専門性に踏み込みつつ、実社会への適応力も身につけるための重点的な教育を意図した教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 建築設計教育として、建築をとりまく住環境・都市環境・自然環境、その共生に向けた生態学的知識や、環境コントロール技術をマネジメントする技術を習得し、それらをより高い芸術性の中で取りまとめられる能力を修得できるプログラムを提供します。<br/>(1) 世界中から第一級の専門家を招致し、広く海外へ教育・研究活動を展開して、研究力及び実践力を修得させ、国際競争力を有する建築設計能力を育成します。【専門力、外国語運用能力】<br/>(2) 地域の歴史、環境、社会を読解するための知識と問題の分析能力を身に付け、未来に向けた良好な生活空間形成の実践的な企画・提案能力を修得させ、都市・建築の再生・リデザイン能力を育成します。【専門力】</p> <p>B. ストック型社会への転換を意識し、既存の都市・建築を活用すべきストックとしてとらえ、その保存・修復・再生、保全に向けた総合的マネジメント能力を修得できるプログラムを提供します。<br/>(1) 京都の特性を意識し、都市史・建築史、建築計画、都市・建築史、構造、建築設計の各分野から、都市・建築ストック活用とマネジメントのための知識と方法と実践を学び、都市・建築の保存・修復・再生能力を育成します。【専門力】<br/>(2) 講義と演習、国内外の実社会のプロジェクトへの参加を通して、国際的観点に立つ都市・建築遺産の保全におけるマネジメント能力を育成します。【専門力、リーダーシップ】</p> <p>C. 企業、地域や海外でのインターンシップを授業科目として位置付け、多様な建築実務経験を促します。また、学部4年次を博士前期課程0年次と見なし、大学院博士前期課程の一部科目の入学前の受講を認め、博士後期課程の3年間を含めた3×3制度による9年間の教育プログラム・システムの実践を進めています。【リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立】</p> |

| 専攻等     |                               | カリキュラム・ポリシー   |
|---------|-------------------------------|---|
| デザイン科学域 | 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学<br>国際連携建築学専攻 | <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、「建築学における基本的な知識や技能に加え、国際的にも通用するより高度な設計能力や研究能力と、それを応用する能力」の習得を目指しています。いわば国際通用性のある高度国際専門職の育成を目指して、教育方針を立て、カリキュラム編成を行っており、これらを反映して以下のような特色を有しています。</p> <p>A. 英語を共通語としたコミュニケーションを円滑にできるような語学能力を身につけ、さらにグローバルな視点の獲得を目指して、授業は日本・タイ両国でそれぞれ一定期間履修することを原則とし、日本・タイ両国の教員による英語を用いた講義・実習を設ける。【外国語運用能力】</p> <p>B. 国際的に通用する建築計画・設計能力および都市・建築の再生・リデザイン能力を習得し、これらをもとに総合的で論理的に思考する能力を獲得することを目指して、建築設計学及び都市・建築再生学を中心とした講義・実習を設ける。【専門力】</p> <p>C. 講義科目により得た知識・能力などを実社会で実践していくためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を獲得するため、日本・タイ両国において実習を行い、さらに両国の教員・学生の合同による実習を行う。【リーダーシップ】</p> <p>D. 様々な文化的背景を持つ都市・建築空間を地域に根ざして読み解く能力を獲得し、そこから独創的で新しい発想へと展開させることを目指し、互いに相手国で一定期間居住し異文化において生活しながら履修する。【個の確立】</p> <p>また、建築学専攻と同様に、授業科目として企業のみならず地域や海外でのインターンシップを設定し、多様な建築実務経験を積極的に促しています。さらに、学部4年次を博士課程前期課程0年次と見なして、MOに相当する学生には大学院博士前期課程の一部科目の入学前の受講を認めるなど、博士後期課程の3年間を含めた3×3制度による9年間の教育プログラム・システムの実践を進めています。</p> |
|         | 先端ファイブ科学専攻                    | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 革新的・先駆的なテキスタイル開発を担う基礎及び応用能力の修得【専門力】</p> <p>(1) 高機能繊維・複合材料<br/> (2) 生体や生活に適合するテキスタイル素材<br/> (3) 天然繊維資源の有効利用<br/> (4) 感性に訴えるテキスタイル製品の設計手法<br/> (5) テキスタイル製品の感性面からの評価手法<br/> (6) 染織文化財の保存技術、感性機能評価</p> <p>B. 国際シンポジウムの開催及び国際会議等への積極的参加により、最新の知見を学び、それらを応用できる能力を涵養します。また、英語でのプレゼンテーション及びディスカッションの実施により実践的外国語能力の向上を図り、グローバル社会で活躍できるプログラムを提供します。【外国語運用能力】</p> <p>C. 演習、実習科目及び国際シンポジウムの企画・運営を通じて、自ら新しい課題を発見でき、柔軟な思考力により課題を解決する能力を身につけるとともに、各自が設定した目的達成へ導く力を涵養します。【リーダーシップ】</p> <p>上記の教育研究によって、テキスタイル分野における高度専門技術者の養成を行います。また本専攻では社会人のために、特定課題型コースでの受け入れを積極的に行っています。</p>   |
|         | バイオアルベースマテ                    | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. バイオベースマテリアルに関する基礎的知識を身に付ける【専門力】</p> <p>B. 英語で提供される講義を理解し、自分の研究内容を英語で説明する【外国語運用能力】</p> <p>C. バイオベースマテリアルに関する既存研究の問題点を理解し、個別に与えられた課題を指導教員の下で遂行する【リーダーシップ、個の確立】</p> <p>D. 研究室で取り組んでいる課題を理解し、研究活動において協働する【リーダーシップ】</p>   |
| 博士前期課程  | 繊維学域                          |   |

| 専攻等    |   | カリキュラム・ポリシー  |
|--------|---|--|
| 専攻共通科目 |   | 各専門分野を横断的に学べる科目として、専攻を超えた幅広い知識の習得を促します。具体的には、数学、言語、人文・社会科学等に関わる科目を開講し、専門性の深化と学際的な視野の拡大を支援します。  |
| 博士後期課程 | 応用生物学域  | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 多様な生命現象に対して鋭い着眼点を有し、社会における諸問題に対して、卓越した発想力と思考力で、バイオテクノロジーを駆使できる能力を身につける講義と特別演習プログラムを提供します。【専門力】</p> <p>B. 特別演習と研究指導により、日本語並びに英語でのプレゼンテーションができるだけでなく、英語による論文執筆が出来る能力を身につけるプログラムを提供します。【専門力、外国語運用能力、リーダーシップ】</p> <p>C. 特別演習と研究指導により、自ら新しい課題を発見でき、柔軟な思考力と分野横断的総合的視野を有し、リーダーシップを発揮して課題を解決することで、バイオテクノロジーの研究者としての能力を身につけるプログラムを提供します。【専門力、リーダーシップ】</p>  |
|        | 物質・材料科学域  | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 物質・材料化学の分野で先端的な研究開発を進めるための知識と技術を身につけ、それらを活用できる<br/>(1)新規な物質・材料を開発するための共通概念の修得および専門知識の高度化を図る。そのために、講義科目を6領域に区分して提供する。【専門力】</p> <p>B. 革新的な材料開発の社会的意義を深く理解した上で当該分野の開発研究を遂行できる<br/>(1)演習科目により、専攻の関係教員の直接指導の下で、各自の専門に応じた学術情報の調査・まとめ・発表を実施する。【専門力】<br/>(2)最先端の物質・材料開発研究に自力で取り組む基盤やプレゼンテーション能力及びグローバルなコミュニケーション能力を培う。【専門力、外国語運用能力】</p> <p>C. 研究計画や研究成果を明確かつ論理的に発表し、創造的な議論を喚起できる<br/>(1)博士論文の研究指導により、課題の設定から計画の立案、実施、並びに成果発表に至る物質・材料開発研究の総合力が涵養される教育を提供する。【専門力】</p> <p>D. グループを組織して当該分野の開発研究を先導するリーダーとしての素養、および実践的な外国語能力を有し、グローバルな視野にたつて当該分野の開発研究を遂行できる<br/>(1)社会人及び外国人留学生などの多様な学修歴を持つ学生にも対応する教育プログラムを提供する。【リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立】</p> |
|        | 設計工学域   | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 電気電子工学に関わる広汎な研究開発分野の学術体系を広く理解し、その知識を応用する研究力を身につける講義【個の確立、専門力】</p> <p>B. 高い問題解決能力を備え、研究開発を牽引できる力を身につける博士論文の作成に向けた研究活動【個の確立、専門力】</p> <p>C. 問題解決が社会に提供する価値を最大化する方向に向けて、知の構造化、再構成をはかる能力を身につける俯瞰的視野を養うための異分野での研修活動【個の確立】〔俯瞰性〕</p> <p>D. 国際性と自己能力を広く展開するための英語力、コミュニケーション力、表現力を身につけるインターンシップなどの学外活動〔俯瞰性、国際性〕</p>   |
| 設計工学専攻 | <p>本専攻では、研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 素材の解析、評価、加工、及びそれらのシステム化を含めた理論の構築と応用。【専門力】</p> <p>B. 情報を解析するための数理的手段の考案。【専門力】</p> <p>C. コンピュータのハードウェアやソフトウェア及び人間との係わり合いに配慮した総合的情報システムの開発。【専門力】</p> <p>D. 情報処理や生産技術体系等の複雑な複合システムについての解析、評価、計測、予測、及び制御。【専門力】</p> <p>E. 材料の選定から各種工業製品の製作に至る一連の工程についての構成、評価、設計、加工、管理、及びその最適化や知能化。【専門力】</p> <p>F. 設計工学特別演習Ⅰ・Ⅱなどで実施される国内外を問わない幅広い研究活動を通じて、研究内容および成果に基づく学術論文執筆・プレゼンテーション・ディスカッションなどを経験することで、将来の研究主催者(PI)としての能力を養います。【専門力、リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立】</p> |  |

| 専攻等    |             | カリキュラム・ポリシー  |
|--------|-------------|--|
| 博士後期課程 | デザイン科学域     | <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. デザインにおける専門知識、方法の繰り返し実践を通じた修得</p> <p>(1) 産学連携課題を活かしたPBL(Project Based Learning)教育【実践力】</p> <p>(2) 授業および研究室における徹底的な議論【専門力】</p> <p>B. 異分野協働(インターディシナリー)体験による共創姿勢の修得</p> <p>(1) 多様な異分野混合チームワークの体験【専門・文化を超えたコミュニケーション力】</p> <p>(2) デザインを共通言語としたチーム運営【専門力、リーダーシップ】</p> <p>C. 実践的キュレーション演習</p> <p>(1) ゼミにおける研究発表とディスカッション【専門力】【コミュニケーション力】</p> <p>(2) キュレーション関連演習を通じた基礎力と学芸員としての実践力の修得【実践力】</p>                                |
|        | 建築学専攻       | <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定め、これに基づき、さらに高度な知識・技能を学び、建築設計、都市・建築の再生に関わる新たな技術や理論の構築を担う、あるいはその技術・理論を背景としながら、建築や都市と社会政策を通じてリードしていける人材を育成することを意図した以下の教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 高度設計者養成のため、博士前期課程で身に付けた知識・技能、あるいは、実社会で身に付けた実践的設計能力と実績に基づいて、後期課程では、より高度な設計哲学とそれに基づく実践的な設計能力の育成、さらに、研究者・教育者としてのより専門性の高い研究を実践していきます。【専門力、リーダーシップ】</p> <p>B. 建築ストックの保全や都市再生に関わる多様な技術・技能に関してより専門性の高い研究を行い、新たな技術や理論を開拓するため、授業科目として地域や海外でのインターンシップを正式に位置付け、多様な建築実務経験を積極的に促すなどの教育プログラムを編成しています。【専門力、リーダーシップ、外国語運用能力】</p> |
|        | 織維学域        | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. テキスタイルサイエンスに関する高度な専門知識を修得する【専門力】</p> <p>B. 特別演習と研究指導により、日本語並びに英語でのプレゼンテーションができるだけでなく、英語による論文執筆が出来る能力を修得する【外国語運用能力】</p> <p>C. 自ら新しい課題を発見でき、柔軟な思考力と分野横断的視野を有し、リーダーシップを発揮して各課題を解決することで、研究者としての能力を修得する【リーダーシップ、個の確立】</p> <p>D. 社会人及び外国人留学生などの多様な学修歴を持つ学生にも対応する教育プログラムの実施【多様性】</p>   |
|        | バイオベース材料学専攻 | <p>研究科及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. バイオベース材料に関する高度な専門的知識を身に付ける【専門力】</p> <p>B. バイオベース材料に関する最先端の研究を理解し、その問題の真因を見つける【専門力】</p> <p>C. 英語で研究成果を発信し議論する【外国語運用能力】</p> <p>D. バイオベース材料に関する研究の問題解決のための方法を提案する【リーダーシップ、個の確立】</p> <p>E. 研究室で取り組んでいる課題を理解し、研究活動においてリーダーシップを発揮する【リーダーシップ】</p>  |